

Kandai Style

2017.1 Vol.456

関西大学通信



関大人の冬物語

130
KANSAI
UNIVERSITY

関西近辺で手軽に楽しく行ける、温泉や銭湯を紹介します。この冬、寒さで縮こまった体を温めに行ってみませんか。

冬物語

関大人の



兵庫県神戸市
「天然湧湯
吟湯 湯治聚落」

癒してくれる湯加減
登山後の疲れを

高校生の頃、陸上部の練習帰りに、父と一緒に温泉や銭湯に行っていました。体を動かした後の温泉はとても気持ち良く、この頃から温泉好きになりました。最近よく行く温泉は神戸市にある「吟湯 湯治聚落」です。探検部で登山した後に、各地のいろいろな温泉を訪れました。有名な温泉にも行きましたが、お客さんが多かったり、湯の温度が熱すぎてゆっくりぬくことができずでした。ここの温泉の湯加減は、登山後の体温が上がった体にもちょうど良く、特に炭酸泉の露天風呂が気に入っています。開放感があって気持ちが良く、体の芯から温まります。先日は、六甲山登山の帰りに立ち寄り、登山の疲れが取れました。

文学部 2年次生
小藪 一輝さん
(文化会 探検部)



大阪府岸和田市
「天然温泉
だんじり湯」

だんじりと
温泉

温泉とお祭りが好きです。自宅が城下町で有名な大阪府岸和田市ですので、小さい頃からだんじり祭りに参加しています。だんじりの後ろについて一緒に走るのです。そうして汗を流した後、自宅から車で10分のところにある、お気に入りの「天然温泉 だんじり湯」につかると疲れが取れます。だんじりが屋根に乗った瓦びきの建物で、内装もだんじり一色ですから、なんともうれしい温泉です。源泉は地下1キロで、毎分550リットル湧き出る、ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩の豊富な温泉だそうです。愛媛県西条市の祭りに出かけるのも、みこしやだんじりなど150台が出る大規模な祭りがあるからです。行けば必ず近くの温泉につかって帰ります。

文学研究科 M1
辻井 花歩さん



大阪府大阪市
「街の湯治場
上方温泉 一休」

練習後の疲労を和らげ、
友人との時間ももてる場所

自宅から自転車で約10分の場所にある「一休」には、地元の友人と一緒に月に2、3回行きます。露天風呂や陶器風呂などいろいろな温泉があり、なかでも広々としている大浴場が気に入っています。アメリカンフットボールを始めて13年目になりますが、大学生になってからの練習が一番ハードです。私の場合、入学時から体重を20kg近く増やす必要があり、知らぬ間に足腰に負担がかかるので、練習の疲れをしっかり取って、柔軟性を高めることがけがの予防につながります。

授業と練習で忙しく、友人と遊ぶ時間がなかなかないため、温泉と一緒に行くようになりました。温泉に入ると気分もリフレッシュし、友人との会話も弾みます。ぬくもりながらのストレッチや温冷交替浴をすることで、疲労の回復が実感できます。

人間健康学部 4年次生
佐嶋 優輔さん
(体育会 アメリカンフットボール部)



京都府京都市
「船岡温泉」

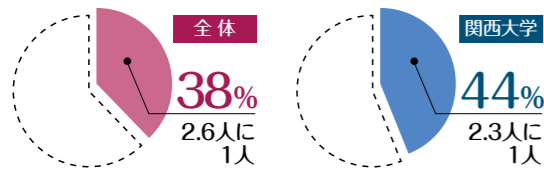
非日常を味わえる
レトロな銭湯

銭湯の魅力は、温泉に行くような気持ちで、手軽にお安く非日常を味わえるところです。京都の千本鞍馬口近くにある「船岡温泉」は、一見旅館のような門構えの京都らしい風情ある銭湯で、国の有形文化財にも指定されています。檜風呂や露天風呂など、いろいろな風呂が楽しめるのに加えて、脱衣所と浴室の間の渡り廊下には色鮮やかなマジリカ風タイルが施されていたり、脱衣所には欄間があったり、日本の銭湯文化が随所に見られるところに魅力を感じます。また、近くには昔の銭湯をカフェに改装した「さらさ西陣」やあぶり餅で有名な「今宮神社」があるので、学生の皆さんには京都の町とおいしい物と一緒に楽しんでもらえたらいいですね。

政策創造学部
杉浦 勉准教授
(教員組合 銭湯文化同好会)



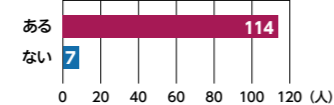
奨学金制度を利用している学生の割合



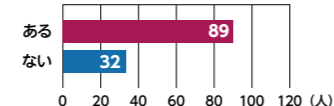
※大学、短期大学、大学院、高等専門学校及び専修学校(専門課程)を指す(日本学生支援機構データ集より)

※関西大学奨学金、日本学生支援機構、関西大学給付奨学金、民間財団、地方自治体奨学金を含む(関西大学「学の実化」データブック2016より)

Q 奨学金制度に関心はありますか?



Q 関西大学の奨学金制度を利用しようと思ったことはありますか?



みんなで一緒に考えよう。

関大誌上教室

多くの学生が利用している奨学金について、利用している人・していない人問わずどのように思っているかアンケートを実施しました。

【アンケート期間】11月18日～11月24日 【対象】関大生 【回答者】121人



奨学金制度について

関西大学では、学生一人ひとりの経済的なサポート体制の充実に力を注いでいます。学内で独自に給付・貸与する奨学金のほか、日本学生支援機構奨学金や民間奨学金財団給付奨学金などの学外奨学金に出願することも可能です。奨学金の種類や募集時期などの詳細は、奨学支援グループまでご相談ください。
<http://www.kansai-u.ac.jp/scholarship/>

Q 奨学金についてどう思いますか?

現在、利用しているのありがたいですが、卒業後の返還が少し不安。

文学部
1年次生 | 女子

Q 奨学金を利用してどのように感じていますか?

将来、きちんと返還できるか不安ではありますが、奨学金のおかげで大学に通えているので奨学金という制度があって良かったと思います。

化学生命工学部
2年次生 | 女子

自分が挑戦したいこと、例えば留学などのまとまったお金が必要な時に重要だと思います。学生が学業に専念したい時にお金のことを心配する負担が少しでも軽くするために必要だと思います。

経済学部
1年次生 | 女子

奨学金のおかげで、勉強を頑張ろうと励みになり、将来的には自分で返さなければならぬという自覚が生まれるため、その点では良かったと思います。

社会学部
2年次生 | 女子

現行の制度に満足しており、今後も制度を充実させてほしいです。

総合情報学部
3年次生 | 男子

全てを両親に負担させずに卒業後にこつこつ返していきたいです。

商学部
1年次生 | 女子

奨学金のおかげで大学に通えているのありがたいです。大学を卒業し絶対に就職なくてはという気になります。

総合情報学部
3年次生 | 男子

Q 奨学金を利用して、アルバイトや生活が大きく変わりましたか? その理由は何ですか?

アルバイトを多くする必要がなくなり、学業や学生生活に確保できる時間が増えました。奨学金がとれたという喜びと、自分の学生生活が支えられている感謝の気持ちから、充実した学生生活を送ろうという意気込みも持てました。入学時から奨学金を利用していますが、アルバイトや学生生活における価値観、優先順位の決定において、奨学金は大きな指標となりえます。学生として学業に専念することや、大学でのさまざまな活動を大切に感じられるようになります。

社会安全研究科
M1 | 男子

私は最初から利用していますが、生活に大きく影響があると思います。奨学金のおかげで生活に余裕ができたと思います。留学を考えることもできました。

政策創造学部
1年次生 | 女子

大学生生活が忙しくアルバイトをしなければ、毎日の昼食を購入したりする費用を節約しなければならず、体調を崩しがちでしたが、奨学金を得ることでそれらを改善することができました。

理工学研究科
M1 | 男子

奨学金を利用してはいますが、一人暮らしにかかる費用も依然として大きいので、何らかのアルバイトはやっていないと厳しい状況です。

文学部
4年次生 | 男子

変わったと思います。大学院に在学していますが、奨学金のおかげでアルバイトに割く時間を減らすことができ、研究に集中できる環境が得られています。

理工学研究科
M2 | 男子

Q 奨学金について友人と話したことはありますか? どのような話をしましたか?

お互いにどのような奨学金を利用しているかを話したことはあります。意外にHPを逐一確認している人は少なく、自分の話を聞いて初めて知った人もいました。奨学金利用について、学生の間でも情報の共有がうまくいっていないように思われます。そのため、奨学金の広報活動をもっと増やしてほしいと思います。

文学研究科
M1 | 男子

数百万円にもなる返還額が、将来の生活を圧迫しないかどうか不安だという話をしました。だからこそ、しっかり給料のもらえるところに就職しようとして改め感じました。

化学生命工学部
4年次生 | 男子

あります。奨学金制度はかせないものです。奨学金制度を比べて、大学を決める留学生が多数いるそうです。

外国語教育学研究科
D1 | 女子

Q 奨学金についてご両親(保護者)などと話したことはありますか? どのような話をしましたか?

「現在奨学金が毎月何円もらっていて、関大給付型の奨学金もあるよ」等、奨学金についての情報はほぼ全て自分で収集して情報共有しています。

総合情報学部
3年次生 | 女子

自分の名前で借りるものだから、全部自己責任で管理するよう言われました。その通りだと思いますし、自己責任が伴う事柄はこれからは増えるので、金銭管理は自立のために必要な力のうちの1つだと思います。

文学部
3年次生 | 女子

必要か必要でないかじっくり話し合いました。

商学部
2年次生 | 女子

両親は授業料等の支払いに応じてくれる様子でしたが、やはり負担をかけたくないという思いと、成人してからは自分の身の回りの事や、選択した進路について可能な限り自身で賄いたいと話しました。

理工学研究科
M2 | 男子

今回受けられたことについては、お金よりも「頑張ったことが認められて良かったね」と喜んでくれました。奨学金のことだけを考慮して受講科目を決めるようなことはしない方がいいと言われています。

総合情報学部
2年次生 | 女子



OPINION OF PROFESSOR
経済学部 林宏昭教授

大学への進学率が高まった今日、奨学金は貴重な制度であり、学生支援機構の奨学金は3分の1を超える学生が活用しています。その中でも利付貸与の奨学金は、近年引き下げられてきたとは言え利子が課されます。かつてのように就職後確実に給与が上昇することが保証されていれば、返済の相対的な重さ

は次第に縮小しますが、必ずしもその将来は確保されていません。また、市中銀行の日銀からの預入について「マイナス金利」が導入されるような低金利の時代に、奨学金に対するプラスの金利を設定している状況は不適切だと思います。奨学金の返済は次世代の奨学金の原資にもなるわけですから適切な返済は必要なことですが、一方で給付奨学金の拡大や利子のさらなる見直しなど取り組むべき課題は多いと思います。同時に、奨学金を利用しているかいないかにかかわらず、学生たちは大学教育に費用をかける成果を社会に対して示す責務が負われていると思います。

次回のテーマは…「社会人のストレス解消法」

誰もがストレスを抱える現代社会において、うまくストレスと付き合い、解消する方法について、社会で活躍する卒業生にインタビューを行います。

1月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「奨学金を考える」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します(1月10日に通知予定)。「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。



アパレル業界／販売

スケッチャーズジャパン合同会社
アンティ・クナスさん

Ressun Lukio 出身 (フィンランド)
HAAGA-HELIA University of Applied Sciences 卒業 (フィンランド)
2014年経済学研究科修了



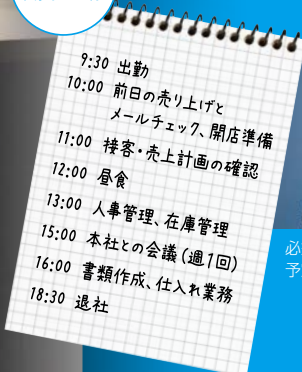
勉強と就職活動の経験から、
諦めない人材の育成に力を入れています。

フィンランド出身のアンティ・クナスさんは、スケッチャーズジャパン合同会社に入社して1年半になります。現在は、神戸元町1番街にある神戸元町店で店長を務めています。オリジナルシューズの仕入れや在庫、販売から売り上げまで、店舗を総合的に管理しています。中学の頃から各国の言語を学んでいましたが、高校時代に日本語と出会い、勉強するうちに日本への関心を深めたのだそう。漢字を1200字覚えるなど、語彙力には自信がりましたが、言葉や文化をもっと知りたいと考え、フィンランドの大学在学中に1年間、日本への交換留学を経験。弱点だった会話を、授業とホームステイで強化しました。

大学卒業後、関西大学経済学研究科に入学し、日本経済史を専攻。日本の経営者や経済発展の足跡を学びました。学んだことを仕事に生かそうと、日本での就職を決意し、就職活動を始めますが、企業の採用基準がつかめずに戸惑います。不採用が続く中、落ち込むこともありましたが「気にしすぎるとチャンスを逃すかもしれないので、積極的に行動するよう気持ちを切り替えました」。その結果、アパレル企業に採用されます。真剣に仕事に取り組みながらも、将来を見据えてより高いスキルを身に付けたいと考えていたとき、スケッチャーズにスカウトされて入社。半年間、副店長を務めた後、店長に就任します。現在は人材育成に力を入れ、店長・副店長が不在でもスタッフに店舗を任せられるように、社員の自主性を育てているそうです。また自身の経験から「失敗してもそこから学べばいい。落ち込まずに次も100%の力でやってほしい」と話します。

勉強が趣味というクナスさんは、時間があれば、さまざまなジャンルの書籍を読むのだとか。最後に「興味があることに全力で取り組み、将来に生かせるスキルを、何か一つ身に付けてほしい」とエールを送ってくれました。

ある1日のスケジュール



必須アイテムは、情報収集に必要なカメラ、税込み価格を計算する電卓、予定を管理するためのスケジュール帳など

Store Manager

VIVA!!

学び易



経済学部

「経済学演習3」 中澤信彦 教授

日常生活における「あたりまえ」を問いなおす。

世の中の「あたりまえ」に疑問を抱き、
自らの頭で考える力を養い、自主的に行動することを目指します。

演習テーマは、「脱常識の社会経済学～「あたりまえ」を問いなおす～」。中澤信彦教授のゼミでは、日常生活に溶け込み、常識となっている「あたりまえ」を根底から疑います。学生自ら関心あるテーマを設定し、自分が納得できるまでとことん追求することが、このゼミでは求められています。

ゼミに入ってまず初めは、「教えてもらってあたりまえ」という授業の在り方を問いなおすために、学生自身で「意義ある授業」を作ることからスタートします。仲間に有意義な時間を持たせたいと思わせれば成功。うまくいかなかった時は、その理由を学生に考えさせます。自分の頭で考える能力が養われてくると、バラバラだった知識がつながってくるのだとか。また、そうなると、学ぶことが面白くなってきて、その成果をより大きな舞台上で確かめたいくなるものなのだとか。昨年度は「西日本インカレ2015(合同研究会)」で「食品ロス削減へのアプローチ」を発表し、見事優勝。今年度もゼミ生が3つのグループに分かれ出場しました。2年連続の優勝とはなりませんでしたが、審査員特別賞を受賞しました。また、「後輩ゼミ生の選考を先輩ゼミ生が行っている」こともこのゼミの基本理念である「学生主体」の現れの一つであるとのこと。このようにして、先輩が後輩を指導し、後輩は先輩を見て学ぶ関係が生まれます。さらに、他学年の学生とつながる機会を増やすため、3学年合同で夏冬に合宿を実施しています。それらの活動を通じて、学生は「学生主体」のゼミ運営に誇りを感じることができそうです。

集大成である卒業論文は、執筆を孤独な作業にさせないことが重要だと中澤教授は話します。皆から意見を聞いてできあがった卒業論文は、全員の共同作品と言ってもよいものです。卒業生や保護者を招待して行われる「卒業論文報告会」は、2005年に始められた中澤ゼミの恒例行事で、2年半の学びの成果を証明するセレモニーとなっています。「経済学にあまり興味を抱かずに入学者が、卒業する時に『面白かった』と思ってくれる仕掛けを、これからも作っていきたい」と話します。

最後に「予期せぬ環境の変化で、苦境に立つ場合もある。逆境の中でも、決して思考停止せず、自分の頭で考え、人生の選択肢を探せる人になってほしい」と締めくくられました。



横田しおりさん(3年次生)

経済にとらわれない身近なテーマを取り上げるので楽しいです。チームで取り組むことで、責任感が生まれました。ゼミの一環で企業取材する機会があり、視点を変えて課題解決に取り組む方法を学びました。関西大学に入って良かったと思えるゼミです。



神谷幸司朗さん(3年次生)

自分たちでゼミを動かす特殊性に魅せられて入りました。もともと自己表現には自信がりましたが、より深く考えて発言しなければならぬ論理的思考を学びました。「人間力」で勝負する人に成長できる最適のゼミです。



経済学部

中澤信彦 教授

このゼミでは、自分の頭で強く深く考え抜く力の養成を何よりも大切にしています。考える前にインターネットで検索してヒットした情報を鵜呑みにしてしまいがちな時代だからこそ、こうした力は社会でますます必要なものになっています。学生が流した汗の分だけ、私も汗を流して頑張ります。



たかつき アイスアリーナ 創設10周年

日本の大学で初めて国際競技規格を満たしたスケートリンクとして注目された「関西大学 たかつき アイスアリーナ」は2016年、創設10周年を迎えました。高橋大輔さん、織田信成さんら著名な選手を輩出、グランプリファイナル2016銀メダルの宮原知子さん(文学部1年次生)のほか、2016年世界ジュニア選手権大会優勝の本田真凜さん(関西大学中等部3年生)や同大会出場の中村優さん(政策創造学部2年次生)ら現役選手が練習に汗を流すリンクの裏側をのぞいてみました。



年中無休

「関大のフィギュアスケート」が世界レベルにある今、このスケートリンクも全国的に有名になりましたが、リンクを使う選手は関大生に限らず、実に多彩。理由の一つは「年中無休」です。関西には11カ所のスケートリンクがありますが、その半数は夏季休業となり、国際競技規格も満たした関大のリンクは貴重です。

市民にも開放

市民にも開放されており、毎年2月中旬の「ウインタースポーツデー」には高槻市民が招待されます。また「関西大学カイザーズクラブ」のフィギュアスケートクラブやアイスホッケークラブもこのリンクを使い、アイスホッケークラブだけでも約50人の小中学生が年間約70回、このリンクで汗を流しています。各地の有望フィギュアスケート選手もこのリンクを利用し、既に白岩優奈さん(中学3年生)はジュニアグランプリに出演し、紀平梨花さん(中学2年生)は「トリプルアクセルを跳んだ7人目の女子選手」として注目されています。

早朝から深夜まで

ところで興味深い予定表(右表)があります。縦軸に毎月の日付、横軸は時間別の表で、毎日のどの時間帯にどの団体がリンクを使っているかを示しています。どの月もたいい朝7時ごろから使用開始で、おしまいは普通の月で午前2時です。深夜には他大学の選手たちが他のリンクより少し安い料金で練習しています。

大阪大、大阪府立大、京都大、同志社大、立命館大などが常連校です。時に夕方までの枠が空いて関大の担当者から他大学のチームに「空きが出ましたから良かったらどうぞ」と連絡しますが、京大は「うちは深夜で結構です」との返事。聞けば「家庭教師をしている学生が多いので、深夜のほうが都合が良いのです」といいますから、こんなところに各大学の特徴がのぞけます。

微妙なエッジ(刃)の調整

リンクには選手に欠かせない裏方があります。その一人がフィギュアスケートトータルアドバイザーの田山裕士さんです。梅田に本店がある株式会社小杉スケートの職人で専門はスケート靴の「調整」。選手の足と靴、その下のエッジ(刃)と氷。この4つが上手くかみ合って初めて世界レベルのスケートが実現します。特に微妙なのがエッジの両端で、氷に食い込む最先端部分です。これを砥いで鋭くすればするほど、「氷をガッチリつかむ」ことができます。その分、演技がやりやすくなるのですが、反面、摩擦が増えるので、なめらかな滑りが阻まれることにもなります。それを調整する微妙な砥ぎかたが選手によって千差万別で、長年の経験がものをいう作業です。田山さんへの依頼は関西圏だけでなく西日本各地から寄せられるそうです。

H25. 6月分関西大学アイスアリーナ予定表 6月15日現在

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1日	10:00-12:00	13:00-15:00	16:00-18:00	19:00-21:00	22:00-24:00																									

※ユーズ(特)貸切は、ホース中高級スケート靴の専任練習です。その他の選手は専任ではありません。

月間利用時間過去最高の505時間を記録した2013年6月の利用予定表





政策創造学部3年次生

田中 乃絵さん

私にしかできないことを求めて

2016年の夏まで関西大学放送研究会（KBC）で活動していた政策創造学部3年次生の田中乃絵さんは、昨年の10月からFM802のDJをしています。夏のDJオーディションで前回の雪辱を果たし、見事合格。新人DJが担当する深夜の帯番組「LNEM—エルネム—」の土曜パーソナリティーを務めています。番組のコンセプトは「真夜中のミュージックサークルを楽しもう」。現役大学生が担当する明るい雰囲気が漂う生放送の音楽番組です。

音楽好きが高じて、番組では「田中からぼたもち」というコーナーを企画。アーティストの知られざる名曲を紹介するこのコーナーは、「移り変わりの激しい音楽業界において、活躍しているアーティストの思いを多くの人に伝えたい」という考えから、田中さんの好きなアーティストの曲や、ぜひとも聴いてほしい曲を流しています。

小学生の頃からアナウンサーに憧れ、放送部が有名な中高一貫校に入学。放送部でラジオ番組の制作に関わり、その面白さに魅了されたことと、朗読大会で不本意な成績に終わった時、音楽に励まされたことがきっかけで、ラジオDJを目指すようになりました。

大学入学後はKBCのアナウンサー一部で活躍し、昼の放送でキャンパスDJを担当しました。充実した日々を送りながらも持ち続けていた「もっと上を目指したい」という気持ちが、DJオーディションを受ける原動力になったそうです。

田中さんのモットーは「ラジオはリスナーと一緒に作り上げるもの」、そのためにメッセージも自身で選ぶようにしているとのこと。ラジオDJの醍醐味はリスナーからリアルタイムにレスポンスがあることなので、応援メッセージをもらって「聞いてくれている人がいる」と実感でき、励みになると言います。時々、番組スタッフから「話し方が硬すぎる」と注意を受けるそうですが、リスナーとの距離感を縮めるためにも、親近感の湧く話し方が大切だということも学んだと話します。

「私にしかできない仕事をしたい。それがラジオDJの世界であれば最高ですね」と語る田中さん。今後はDJに必要な知識と経験に加え、リスナーが求める元気さと面白さも兼ね備えていくのが目標だそうです。知識だけでは言葉に深みが出ないと言われるため、経験を積むためにこれからさまざまなことに挑戦していきたいと熱い思いを語りました。



写真提供 FM802

今回は、田中さんからのご紹介で高橋結香さん（社3）が登場。お楽しみに！



Noe Tanaka

学部・研究科トピックス

法学部／法学研究科

今年もさまざまな行事を開催予定!

法学部では、昨年11月14日に、客員教授中尾巧氏(弁護士)をお招きして学術講演会「検事という職業」を開催しました。多くの学生が熱心に聴き入っていました。また、12月13日には、現在、法学部4年次に在学している市役所・県庁採用予定者に参加協力してもらい、「公務員試験ガイダンス」を実施しました。今年も、法学部では、さまざまな「学術講演」や「ガイダンス」などを開催する予定ですので、ぜひ参加、出席してください。

(教学主任 佐伯和也教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

日本研究の国際化を進める

文学研究科では、日本美術史・日本史・日本文学などの分野でヨーロッパの大学と共同で研究会を行っています。昨年は、ルーヴェン大学(ベルギー)・チューリッヒ大学(スイス)・カレル大学(チェコ)を訪問しました。海外における日本研究を聞くと新たな研究方向も見えてきます。



(原田正俊教授)

経済学部／経済学研究科

アフリカ開発の新展開に市民社会の連携を

経済学部では、津山直子客員教授によるアフリカと私たちをつなぐ講演会を開催しています。2016年8月末にはケニアで「第6回アフリカ開発会議」が開催されました。この会議には政府関係者だけでなく市民社会の代表も参加しました。アフリカの市民社会と私たちが連携することでお互いの発展の道を考えることが大切ですね。



(北川勝彦教授)

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

公認会計士試験、商学部3年次生2名在学中合格!

平成28年度公認会計士試験の合格発表が11月に行われ、商学部3年次生2名が在学中合格、卒業生7名が見事に合格しました(合格率10.8%)。商学部では、入学時から簿記・会計教育に力を入れており、CPA説明会、簿記コンテスト、答案練習会などを実施し、今後も積極的な支援をしていきます。



(岡照二准教授)

社会学部／社会学研究科

体系的な研究を目指して

社会システムデザイン専攻は「経済アナリストプログラム」「マネジメント基礎プログラム」「社会ネットワークデザインプログラム」の3つのプログラムを開設しました。指定された科目群を履修し、レポート課題を提出して内容が認められれば修了できます。今年度末にはこれら3つのプログラムを修了する学生が初めて誕生する予定です。実習やインターンシップが必修のプログラムもあり、理論研究と実証分析の調和を重視する本学部の教育の狙いがプログラムの内容にも反映されています。

(教学主任 橋本理教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

客員教授講演会を開催しました

客員教授講演会が昨年度4回開催されました。具体的には、アジア経済や中東経済、国際関係やユネスコ運動など、本学部においてさまざまな研究分野が学べる特色を生かした講演会となりました。今後とも、最新のトピックに関する講演会を開催していきますので、積極的に参加してください。



(宮下真一教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

第5回SA説明会開催

外国語学部では2年次生全員が海外の提携校へ1年間留学(スタディ・アブロード、SA)をします。SAプログラム参加のための説明会が年間7回開催され、第5回スタディ・アブロード説明会が2016年12月3日に開催されました。納入学費、緊急時(暴動に巻き込まれる、交通事故に遭うなど)に受けられる関大トータルリスクマネージメントサポート、留学先での危機管理、留学手続き関係など詳細な説明が行われました。さらに、今回は保護者の方も参加され、活発な質疑応答が行われました。

(吉澤清美教授)

人間健康学部／人間健康研究科

関大生、リオ五輪に出場!

熱狂の日々がいささか懐かしい感じがしますが、関西大学から唯一、リオ五輪に人間健康学部生が出場しました。出場したのは1年次生の高野芹奈さん、競技種目はセーリング(ヨット)競技49erFX級。競技を始めてからなんと3年半での出場という快挙です。和歌山セーリングクラブ所属の宮川恵子さんと組んで善戦健闘するも、残念ながら入賞はできませんでしたが、次回の東京五輪では、もしまだ在学中だったらがんばってきっと上位入賞してくれるでしょう!

(森下伸也教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

2017年春の情報機器の更新

今年度もスタジオ棟内の一部の情報機器等が更新時期を迎えました。秋学期試験の終了とともに更新作業が始まり、卒業式の頃には新しい設備を利用する準備が整う予定です。更新されるのは1階と2階の教室とサーバの一部で、アクティブラーニングやグループワークなど、学生が主体となる実習室やデジタルファブリケーションに対応した部屋など、新しい教育に対応した環境整備が行われます。授業以外のオープン利用もこれまでどおりですので、自習・課題作成等に大いに活用してください。

(教学主任 小林孝史准教授)

社会安全学部／社会安全研究科

熊本地震調査・四川大学合同シンポジウム

11月17日「熊本地震災害から見た日本の災害対策の国際比較と課題の抽出」をテーマに社会安全学部・四川大学法学院合同シンポジウムを開催しました。社会安全学部は熊本地震調査プロジェクトを立ち上げ調査チームを派遣してきました。本シンポジウムでは災害研究の蓄積がある四川大学法学院の王建平教授が基調講演を行い、小山倫史准教授と永田尚三准教授が熊本地震の被害状況と行政初動対応について報告しました。四川大学院生による四川地震事例報告等の後、山崎栄一教授の司会でパネルディスカッションを行いました。

(亀井克之教授)

システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

日頃の成果を発揮する

新年を迎え、早々に期末試験の時期がやってきます。本年度は、1月16日(月)から到達度の確認試験、1月23日(月)から秋学期試験が始まります。言うまでもなく、これら試験を受けて日頃の勉学の成果が成績として評価される非常に重要な行事であり、多くの科目では授業に出席し勉強していても、試験の点数が悪ければそれなりの成績になります。「こんなはずではなかった」「もっと試験勉強しておくべきだった」と、後悔しないためにも、日頃の勉学の成果が存分に発揮できるように準備して臨んでください。また、学部4年次生は、試験ではなく日頃の研究成果が卒論発表会などで評価されることになります。研究成果が素晴らしいとしても、研究発表の場できちんと伝えることができなければ、聴衆には評価してもらえません。筆記試験とはまた違う難しさですが、発表がうまくいっても、そうでなかったとしても今後の人生の良い経験になるのは保証します。1年間取り組んだ研究の成果をきちんと伝えられるように、発表の準備を怠らないようにしてください。

最後に、今年も第21回を迎える関西大学先端

科学技術シンポジウムが開催されます。今年は、1月19日(木)・20日(金)に開催予定であり、ここでは学部4年次生や大学院生だけでなく、教員の日頃の研究成果発表の場です。また、学内の教員だけでなくさまざまな研究を行っている日本全国の大学教員や、研究機関・企業の研究者も一堂に集まり、最先端の研究成果に触れることができるシンポジウムになっています。研究領域の垣根を越えた交流の場でもありますので、興味があればぜひ参加してみてください。(化学生命工学部入試主任 梅田圭准教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

学校法人関西大学 Kandai Vision 150 を策定

関西大学は創立130周年を迎えるに当たり、20年後の関西大学のさらなる充実・発展のため、どのような人材を育成するか、どのような学園を目指すのかを全構成員が考え、行動するための指針として、Kandai Vision 150を策定しました。

Kandai Vision 150では、「学校法人関西大学の将来像(20年)」として「多様性の時代を、関西大学はいかに生き抜き、先導すべきか」をメインテーマとし、併せて教育・研究・社会貢献・組織運営に関する4つのサブテーマを掲げています。具体的には、「変化を続ける社会に、関西大学はいかなる人材を送り出すべきか」「学の真価を問われる時代に、関西大学はどんな知を提示できるか」「社会貢献のあり方において、『関大らしさ』はどこにあるか」「より柔軟で堅牢な組織となるために、関西大学はどう変わるべきか」とし、加えて前半10年間における政策目標を設定しています。今後、この将来像や政策目標を踏まえた行動計画を立案・推進し、関西大学のさらなる充実・発展に取り組みます。

詳細は、Kandai Vision 150のウェブサイト(<http://www.kansai-u.ac.jp/kikaku/ku-keieirinen/>)をご覧ください。

専門職大学院トピックス

臨床心理専門職大学院

心理臨床の専門家を目指して

臨床心理専門職大学院の学生は、学内・学外での実習を通じて専門技能の習得に日々、精一杯取り組んでいます。また、実習での多様な経験を最大限に吸収するためには、豊かな知識も必要とされ、机上の学習も重要です。多くの課題をこなしながら、実習は授業期間外にも継続的に実践しているため、年末年始は休息をとってゆったり過ごせる貴重な時間だったことと思います。新たな年を迎え、心身ともにリフレッシュして自分の課題を明確にし、目標に向かってさらに歩みを進めてほしいと期待しています。心理臨床は長い年月をかけて学び続けていく仕事です。これからも心理臨床の専門家を目指して、共に学び続けていきましょう。

(教学委員 香川香准教授)

併設校トピックス

関西大学高等部

「EU講演会」を実施しました

さる11月15日、1・2年生を対象に駐日欧州連合代表部主催の講演会「EUがあなたの学校にやってくる」が開催されました。昨年度のドイツ大使館に引き続き、今年度はスロバキア大使館からユライ・ベトルシュカ氏(経済・商務参事官)を招き、EU設立の経緯や歴史、また、現在の世界情勢も絡めながら、その具体的な活動について英語で講演をしていただきました。約1時間の講演会の後、本校生からの数多くの質問にも答えていただきました。今年度は本校の交流校であるシンガポール・ホワチョン校からの交換留学生(10人)もこの講演会に参加しました。

普段聞けないお話を聴講し、生徒たちが今後の学習に生かしてくれることと思います。

(SGH推進部 国際理解教育主任 渡辺洋)



関大トピックス

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に 本学の申請事業が選定

文部科学省の平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」タイプB(世界展開型)に、本学が申請した「『人に届く』関大メディカルポリマーによる未来医療の創出」事業が選定されました。

「私立大学研究ブランディング事業」とは、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学・私立短期大学に対して、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援するもの。今年度は、198校の申請の中から計40校(タイプA(社会展開型):17校、タイプB(世界展開型):23校)が選定されました。

本学ではこれまで、先端科学技術推進機構に設置した医工連携研究センターを中心に、医療の進歩のための革新的技術の開発に寄与するべく、メディカルポリマーを活用した医療器材の開発に力を入れてきました。

本研究ブランディング事業では、この実績を広報戦略「社会とつながる研究」と定義し、本学が開発中の未来医療を革新する材料=関大メディカルポリマー(KUMP)をブランドと位置づけ、「世界の人々に届く」日本発の医療器材の開発を行い、医療基盤を支えるものづくりの重要性の発信と、今まで実現し得なかった未来医療への貢献を目指します。



SIGNIFICANCE

KU-SMART PROJECT ウェブサイト

NTT西日本との共同トライアル 「ICT面接トレーニング」を開始

産学連携プロジェクト「ICT面接トレーニング」は、面接場における自己プレゼンテーション力の向上を目的とした、大学生の就職活動サポートプロジェクト。「ココロの見える化サービス」を展開するNTT西日本と、知的活動支援システムを研究するシステム工学部・小尻智子准教授の研究室が手を組み、本プロジェクトが実現しました。

「ICT面接トレーニング」では、バイタルデータの分析技術や音声テキスト化技術を活用し、情報を客観的にデータ化することで、自分自身のバイタルタイプやチャームポイントを知ることができます。面接を指導する側のサポートツールとして、面接やプレゼンテーションなどセルフコントロールが必要な場面での活用が期待されています。今後は、学内で行う就職活動支援イベントで、本サービスを試験的に導入する予定です。



梅田キャンパスでの記者発表の様子

「関西大学まちFUNまつり」を開催

千里山キャンパスで12月11日、「関西大学まちFUNまつり」を開催しました。本イベントは、関西大学カイザーズクラブとママふぁん関西の共催で、多くの市民・卒業生の方々に大学が楽しい場所であることを体感してもらうことを目的とした、大学・地域一体型イベント。当日は、チアダンスやサッカーなどの「各種スポーツ体験」や科学の不思議を体験できる「サイエンスショー」、「体験ワークショップ&ステージ」、「子ども店長」等さまざまなイベントを実施しました。子どもから大人まで約6,500人の地域住民がキャンパスを訪れ、笑顔あふれる一日を過ごしました。



体育会自転車部の森本晋也さん・野村裕平さんペアが、 全日本学生室内自転車競技選手権大会で優勝

11月26日・27日に東京工業大学で行われた第49回全日本学生室内自転車競技選手権大会で体育会自転車部(サイクルサッカー班)の森本さん(経4)と野村さん(商3)ペアが優勝を果たしました。

室内自転車競技とは、屋内で行われる自転車競技の総称で、サイクルサッカーやサイクルフィギュアなどがあります。サイクルサッカーは自転車とサッカーが融合したもので、1チーム2人制の屋内競技と5人制の屋外競技があり、日本では2人制の屋内競技が主流。ルールはサッカーとほぼ同じですが、手はハンドル、足はペダルから離すことはできないなど特有のルールもあります。

森本さん・野村さんペアはそれぞれ「学生相手の無敗」と「インカレ優勝」を目標としており、見事成し遂げることができました。



写真提供：関大スポーツ編集局

関大人 四方山話 ◆「百年ひとむかしのパリ・サーカス事情」

外国語学部 特別契約教授 平田 渡



スペインの作家ラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナの『サーカス』(原作1917: 拙訳 関西大学出版部 2016)をひもとくと、古きよき時代(ベル・エポック)のパリのサーカス常打ち館に集まる観客は、意外にも庶民の家族連れではなく、王侯貴族や上流階級の人びとだったことがわかる。ピカソやコクトーのような前衛派の芸術家たちも足繁く通い、熱い視線をあげさせた。

当時のサーカスは、キャバレーやダンス・ホールと同様、富裕層の夜の社交場の色合いを帯びていた。そんなわけで、紳士淑女とも、明治時代に鹿鳴館でひらかれた舞踏会を彷彿とさせる、何ともきらびやかな服装を

身にまとっていた。

ふつうは、夜の部のみの興行で、9時半に始まった。さすがは宵っぱりというか、夜ふかしのラテン文化、開演がずいぶん遅い。とても良家の子が行けるような時間ではなかった。その代わり、木曜が日曜、昼の部の興行(マチネー)に、ごちそう入りのお弁当を持って、両親といっしょに出かけた。

最近知ったのだが、じつは、フランスの小学校は、19世紀後半から1972年まで木曜がお休みだったのだ。週半ばにひと息つける楽しい日待ちうけていたのである。これこそラテン的なゆとり教育でなくて何であろうか。

編集後記

『関西大学通信』は毎号たくさんの学生にご協力いただき、発行にいたっています。いつも読んでいる方は、ぜひお友達に宣伝してください。初めて手にとる方はじっくり読んでみてください。今号の「特集」では、学生の皆さんが手軽に行ける温泉や銭湯を取り上げています。寒さ厳しい季節が続きますので、心身ともにぬくもりに訪れてみませんか。これからも『関西大学通信』をよろしくお願ひします。(広報課 池田真理)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2017年1月10日(年9回発行)
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙



カメラマン:文化会写真部 吉内 涼介さん(商2)
モデル:競技かるたサークルの皆さん

競技かるたを今まで撮影したことがなく、その俊敏さや迫力に圧倒されましたが、それに負けないぞという思いで撮影しました。今回、他の写真部員の手助けもあって、良い写真が撮れたと思っています。